２０１６心の冒険・サマースクール」ジョブプログラム　in 長門

ディレクター日誌（活動・子供たちの様子）

期　日：平成２８年９月２４日（土）～２５日（日）【１泊２日】
場　所：長門市油谷向津具　油谷島周辺
参加者：小学校５・６年生１０名

１日目「開会式・仕事探し・夕食作り」

期　日：平成２８年９月２４日(土)
場　所：向津具小学校⇔俵島周辺
テーマ：出会いの日（ふれあいとわかちあい体験）

【活動の様子】

秋晴れの天候に恵まれた９月最後の週末、昨年に引き続き、「ジョブプログラム in 長門」が開催された。２日間ではあるが、子供たちはどのようなプログラムになるのか心待ちにしていたことだろう。もちろん、スタッフもワクワクしながらこの日が来るのを待ちわびていた。

ジョブプログラムは今年も県内 2 カ所、周防大島町と長門市で行われる。長門市でのテーマは『SHOKU で旅する２日間　仲間とともにとことん味わおう！』とした。長門市向津具の豊かな自然の中、自分たちで仕事（職）を見つけ、お願いし、労働の対価として食料（食）をいただくプログラムである。仲間とともにくたくたになるまで働き、その仕事の成果が認められることが必要な１泊２日である。

今日ここに、県内各地から１０人の小学 ５・６ 年生が集った。前週までの雨天による運動会順延日に重なったこともあり、参加者は予定よりも少なくなった。皆、初めて出会う者同士である。午前８時過ぎ、ちょっぴり緊張した面持ちで参加者が集まり始めた。きっと、子供たちは初めての出会いに期待と不安がいっぱいだろう。９時前には全員集合し、体育館で円になり開会行事を行った。まだまだ、みんなの表情は固く、お互いの距離も離れ気味。集合の円も広いように感じられる。プログラムが終了する明日の閉会式ではどのような円になっているのか楽しみだ。

開会式の後、各班のインストラクター(以下、イントラ)がアイスブレイキングの活動をした。参加者の緊張は少しずつほぐれていった。そして、いよいよ、旅の出発に向けてダッフルシャッフル（荷物分け）を行った。これからどこに行って、どんな仕事をするのか、子供たちには見通しが持てない不安はあるが、「ここに行けば仕事があるかもしれないよ。」という情報と仲間の存在は心強い。「１人ではない。仲間がいる。」という思いで、子供たち同士、だんだんと話し合うことを意識し始めた。「(現地に着いたら)お仕事を手伝わせてくださいと、まずお願いすることから始めよう。」と決まったようだ。短い言葉ではあるが、子供たちの思いが詰まった言葉である。話し方１つで相手の受け止め方が変わってくる。「自分たちの思いをどのように伝えればいいのかを考える。」これも大切な学びである。

一生懸命働きたいという前向きな姿を見せた子供たち。１人ひとりの目標設定をした後、車で１５分ほどの場所に移動した。眼下に広がる油谷の海、そして俵島。傾斜地にある田んぼで働いている方がおられたので、子供たちは戸惑いながらも、「こんにちは。何かお仕事を手伝わせてください。」とお願いし、稲刈りを手伝わせていただくことになった。

稲刈りをほとんどしたことがない子供たちばかりだったが、見よう見まねで作業をしていくうちにどんどんできるようになった。「はぜかけ」にも挑戦した。「はぜかけ」とは、刈り取った稲をわらで束ね、竹にかけていく作業である。縛り方が甘いと、竹にかけた後で稲がどんどん下に落ちていく。予想通り何束もの稲が下に落ちていたが、初めてはぜかけをする子どもたちに、落ちてしまった稲に気を配るだけの余裕はない。そこでイントラの出番である。「この稲どうするの。これも農家の方が一生懸命育てた稲だよね。」との声かけに「はっ」とした子供たちはすぐに落ちた稲を拾って束ね始めた。日頃何気なく食べているお米がこんなにも大変な作業を通して自分たちの食卓に並んでいるということに気付くよいきっかけとなった。１つの気付きが大きな力となり、子供たちは稲刈りの大変さや難しさを共有することで少しずつ距離を縮め、会話も増えていった。

昼食は、農家の方のご厚意で、棚田でとれた新米で作ったおむすびと唐揚げをいただいた。塩がほどよく効いたおむすびは、とてもおいしく、みんな笑顔でほおばっていた。

午後からは、昼食のおかげか集中力アップ。流れ作業のように協力して仕事をする姿が見られるようになってきた。また、トラクターにも乗せていただき、子供たちは普段できない体験をすることができた。

１５時過ぎ、任せられた田の稲刈りとはぜかけを終えた子供たちは、仕事終了。一生懸命働いた自信からか、大きな声で農家の方に、「手伝いをさせてくださってありがとうございました。今日の夕食の食べ物がありません。何かいただけませんか。」と伝えることができた。農家の方からお米と野菜を分けていただいた。そして「また来てくれるとうれしいのう。」との言葉をかけていただいた。その言葉を聞いた子供たちの表情は誇らしげだった。自分たちの働きを認め感謝してもらえる。これが働くことの醍醐味ではないだろうか。一生懸命働く中で仕事の大変さや喜びを感じるとともに、人の温かさに触れる時間となった。

仕事を終え、田んぼを下り海に出た。汚れた長靴を洗い、形の整った石を見つけて歓声を上げていた。和やかな雰囲気の海岸散策となった。

今日の宿泊場所は、向津具小学校のグラウンドをお借りする。そこへ戻る途中、学校近くのお店で夕食の買い物をした。それぞれの班の子供たちは、いただいたお米や野菜を使ってどんな夕食を作るかを相談しながら買い物をしていた。「たまごやきをつくろうや。」「カレーのルーを買おう。」「味噌汁に入れる豆腐を買おうや。」など、限られた予算の中で、必要な食材をかごの中に入れていた。

小学校に戻ると班で協力しながらテントを張り、すぐに夕食の準備に取り掛かった。夕食は２班とも「カレーライス」「野菜のたっぷり入った味噌汁」である。いただいたお米は、１粒たりとも無駄にできないと、こぼさないように丁寧に研いでいた。

夜のミーティングでは、今日１日を子供たちの言葉で振り返った。「協力して稲刈りができて良かった。」「農家の人たちはたいへんだな。」「いただいた食材分だけ、はたらけたかなぁ・・・。」などの意見が出された。仲間との協働により労力を提供し、対価として食材を得る。それだけに、責任を持った関わりが強く求めら

れる。ジョブプログラムで学べる良さである。

イントラが子供たちに「働くとは、どういうこと？」と投げかけた。「家族の為に一生懸命にすること。」「自分の知らないことを知ること。」たった１日の体験だが、１人ひとりがいろいろなことを考え、仲間に伝えていた。

長門の自然の美しさに惹かれた子供たちもいたので、１つの班では、イントラが紙芝居風に作り替えた「森が海を作る」の絵本を朗読していた。少し長いストーリーでもあったが、静かに聞き、明日の仕事へ向けてそれぞれがもっとがんばろうという気持ちになったようだ。

こうして「仲間とともにとことん」を味わった１日が終わった。

２日目 *「学校の清掃・仕事探し・閉会行事」*

期　日：平成２８年９月２５日(日)
場　所：向津具小学校⇔百姓庵
テーマ：旅立ちの日（協力の体験）

【活動の様子】

少し肌寒いが天気は快晴。朝日が昇り始め、あたりが明るくなる頃には、それぞれの班は朝食を終え、テントの片付けや荷物の整理を始めていた。子供たちは、自分がしなくてはならないことや仲間のためにできることを意識して活動しているようだった。

片付けや朝食を終えたのち、宿泊場所としてグラウンドを貸していただいたことへのお礼の気持ちを込めて、全員で小学校の清掃作業を行った。流しやトイレ掃除など“来た時よりも美しく”を目標に頑張った。

今日の勤労場所は油谷湾沿いにある百姓庵。本格的な製塩の場である。子供たちは、庵主の井上さんに「仕事のお手伝いをさせてください。」とお願いすることから始めた。井上さんからは「まずは海岸のゴミ拾いをお願いします。」とのお答え。

「海岸のゴミ拾いが仕事のお手伝い？」「それって塩作りと関係があるの？」と、子どもたちは戸惑いを隠せない。１人が「なぜ、海岸清掃が仕事なのですか。」と聞くと、「それを考えながらゴミ拾いをしてください。みんなの仕事ぶりを見て教えてあげよう。」と言われ、疑問をもちながらも黙々と海岸清掃を開始した。

秋の日差しにしては暑いくらいの中、みんな汗をかきながら一生懸命に漂着物を集めていた。いろいろな種類の漂着物があるが、人工的なもの見つけながら仲間と一緒に袋いっぱいに集めていた。

休憩の時に、井上さんから海のお話をしていただいた。私たちの生活と海とは深く関係しているのだという、大切な内容だった。海岸清掃で海を守ることは、結局自分たちの命を守ることにつながっている。だからこそ、この海岸清掃を頼まれたのだということを知り、子供たちの疑問はやっと解決したようだった。

その後、塩作りの工房を見学し、塩作りの工程について学んだ。出来立ての塩の結晶を手に取り、その美しさに感動していた。

工房見学の後は、再び海岸清掃に取り組んだ。「何のために働くのか」という目的の部分がはっきりしたためか、「仕事の質」についても意識し始めたようで、子供たちは前半以上にペースアップして海岸のゴミを拾っていた。

さらに、井上さんから「私は漂着ゴミに感謝しています。なぜなら、ゴミが波によって漂着してくれたおかげで、私たちはわざわざ海の中に取りに行かなくてもいいんです。」その話を聞いた子供たちは、「海岸に流れ着いてくれてありがとう。」という感謝の気持ちももって活動していた。

子供たちは、清掃活動を終えて工房に戻り、出来立ての塩を１つまみ。「塩」の味に感動していた。「この塩で作るおむすびは最高だよ！」という井上さんの言葉に心を揺り動かされながら、海岸清掃の対価としてお塩をいただいた。

仕事を終え、閉会式のために小学校に戻る途中、ある子供が言った。「もらったお塩でおむすびを作りたい。そして、お母さんに食べてもらいたい。」その言葉が広がっていき、２グループともおむすびを作ることになった。子供たちから、感謝の気持ちを表したいという言葉が出た。うれしいことである。

小学校に着くと、子供たちは残り少ない時間の中で、おいしいおにぎりを作り、おうちの方に食べて欲しいという一心で、食器やお米の準備など今の自分にできることを精一杯やっていた。働く一番のエネルギーは、自分が大好きな人の喜ぶ姿なのかもしれない。

自分たちの昼食を終えるとすぐに閉会式。仲間との距離も近くなり初日より小さくきれいな円ができた。家族が見守る中、１人ひとりの子供たちがこの２日間を終えての感想を発表した。どの子も仲間とともにとことん過ごした２日間で「働くことの意義」「食に対する感謝の気持ち」「自分たちを支えてくれた仲間や親への感謝の気持ち」などいろいろなことを感じ、伝えていた。そして、先ほど作ったおにぎりを家族に食べてもらった。「自分たちが働いて、もらったお米と塩で作ったんだよ。」わが子から渡されたおにぎりの味をかみしめるように食べる家族の顔、それを誇らしげに見る子どもの顔、なんとも微笑ましい光景だった。

終わってみればあっという間の２日間。働くことを通して、「自分の役割」「働くということ」「仲間との協力」そのことの大切さを改めて考えることのできる２日間になった。

今回のジョブプログラム。子どもたちの頑張りを支えてくれたインストラクター、全スタッフ、協力してくださった油谷島の皆さん、子供を送り出してくださった保護者の皆さん、多くの方々の思いによって素晴らしい２日間になった。今回のプログラムに関わった全ての人たちに「ありがとう!!」